

1月30日今年初めての臨時会が開かれました。一日の会期でしたが、市民期待の重要案件が決められています。

**福祉灯油あつたか
助成金緊急対策
支給事業**

**あつたか灯油(専決承認)
産地づくり交付金等、決まりました**

今冬の灯油の値上がりは12月20日時点で前年比1ℓあたり20円から30円アップとなり市民生活を圧迫しています。市では18年の所得に対する住民税非課税世帯を対象に、高齢者世帯、障害者世帯、母子世帯、生活保護世帯に1世帯5000円を助成支給するものです。

財源にあるので、市独自で増額できなかったか、と言つ議論もありましたが、当局は近隣市町村の動向も見て、5000円と決めたとしています。

ちなみに対象世帯は5704世帯となります。

産地づくり対策支援事業
担い手加算対象面積が当初予定630haに対し950haと大幅に増えたため、助成単価が下がり、その差額を補填するものです。4100万円の予算です。

除雪費が補正されました
当初予算で7億1000万円計上されていきました。早期出勤23、25回分と予測していましたが、1月28日ですでに山間部は24回の早期出勤があり、今後の除雪に備えて10回分の除雪費を補正するものです。この補正額1億2000万円が決められました。

**産業支援センター清算で意見
が分かれました**

2月7日に開かれた第2回臨時会は、五十嵐市長の給料を60%、(株)横手産業支援センター(YS)が属する事務を担当する石川副市長の給料38%を平成21年9月まで削減する条例改正案、YSへの補助金9270万円を支出する補正予算案が審議されました。疑問を残したまま結論は出せないとして、17日まで会期延長し、審議を重ねました。

議長名で市当局に対し質問状を出して回答を求め、YS社長大久保氏、発芽玄米を作る機械を

納入した日本キレート社の宮原氏、YS前社長の松原氏、発芽玄米製造元である秋田アイリツドの金子社長、JAふるさとの大沼副組合長の5氏に参考人として来庁をお願いし、宮原、松原両氏は文書での回答、他3氏は全員協議会の場で意見陳述していたきました。

この結果は、益々疑念が残つたと言つ議員、ここで結論を出し、この問題を引きずらないで新たな課題に対処して行こうとする議員など、意見は別れ、集約は成りませんでした。

市長、副市長の給料削減の条例案が付託された総務文教常任委員会では、条例案は否決すべきものと決しました。これは、本会議の採決においても否決となりました。YSへの補助金案は議員全員で構成する予算特別委員会に付託され、各会派のそれぞれの思惑が交錯し、特別委員会の採決の際、欠席者、退席者が4名あり、結果15対14で可決されました。否決になった給料削減案は3月議会に再提案され、可決されました。